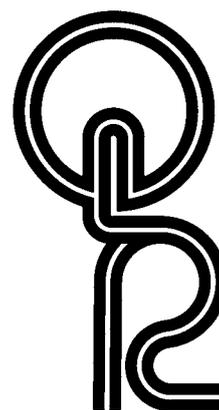


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 25 No.2, 2018



Areni-1 洞窟（アルメニア東南部）の世界最古（約 4,000 B.C.）のワイン醸造施設とされる遺構（撮影：百原 新）

Vol. 25 No.2

April 1, 2018

2018 年大会案内（第 4 報）..... 2	第 5 回執行部会議事録.....11
地球惑星科学連合大会案内（第 3 報）.. 4	学生会員継続届提出のお願い..... 12
縄文海進シンポジウム報告..... 7	会員消息..... 12
第 2 回評議員会議事録..... 8	

◆日本第四紀学会 2018年大会案内(第4報)

本大会は、一般研究発表(口頭およびポスター)とシンポジウム「自然環境と人類の将来予測に向けた第四紀学の最先端:各領域分野の最新動向とその共有・発展をめざして」を中心に開催いたします。

1. 大会テーマ「自然環境と人類の将来予測に向けた第四紀学の最先端」

2. 開催場所 首都大学東京南大沢キャンパス 講堂・7号館スタジオ
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

https://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html

アクセス 京王相模原線「南大沢」駅下車、改札口から徒歩5分。

改札口を出て右手側にキャンパスが見えます。車による会場への来訪はできません。

3. 開催日程 2018年8月24日～8月28日

8月24日(金) 一般研究発表(口頭およびポスター)、評議員会

8月25日(土) 一般研究発表(口頭およびポスター)、総会・各賞授賞式、懇親会

8月26日(日) シンポジウム

8月27日(月)～28日(火) 巡検「伊豆諸島、新島火山の地形・地質と噴火史」(1泊2日)

4. 各種締め切り日

・一般研究発表の申し込み・講演要旨原稿提出:6月22日(金)17時

・シンポジウムの講演要旨原稿提出:6月22日(金)17時

・巡検参加申し込み:7月27日(金)17時

・懇親会事前予約:8月10日(金)17時

5. 一般研究発表:口頭発表・ポスターはそれぞれ1会場で開催します。

6. シンポジウム「自然環境と人類の将来予測に向けた第四紀学の最先端:各領域分野の最新動向とその共有・発展をめざして」

日本第四紀学会では、2017年度から5つの領域を中心とした活動に移行しました。各領域内での集中的な討論、連携が開始されつつあります。一方で分野横断的な性格をもつ第四紀学会では、本大会などを通じて諸研究分野の動向、とくに最新成果を共有することにより各領域ならびに全体の発展が期待できると思われまふ。このような趣旨に立ち、本シンポジウムは各領域から趣旨に即した2～3件程度の話題提供から構成されます。

7. 巡検

名称:伊豆諸島、新島火山の地形・地質と噴火史

日程:2018年8月27日(月)～28日(火)

案内者:鈴木毅彦(首都大学東京 都市環境学部)※責任者

小林 淳・西澤文勝(首都大学東京 火山災害研究センター)

集合:★現時点では、8月の船・飛行機の運航時刻が未定のため時間はおおよそです。

・8月27日 ① 9:00 新島港(前浜港:大型客船) / 新島空港(飛行機)

② 12:00 新島港(前浜港 / 渡浮根港:ジェット船)

・8月28日 ① 13:00 新島空港(飛行機)

② 14:00 新島港(前浜港 / 渡浮根港:ジェット船)

参加費:1万円(見込)、参加費には宿泊費(朝夕2食分を含む)、昼食(2食分を原則としていますが、ジェット船の到着時間によっては、該当者には事前に済ましていただくことを考えています)、飲み物代、旅行傷害保険代を含みます。バス移動・博物館使用は無料です。新島までの移動に関わる予約・費用支出は参加者個人でお願いします。参加費確定額・キャンセルポリシーについては次号の第四紀通信でお知らせします。

定員:15名(5月28日(月)からの申し込み先着順:定員になり次第締め切ります)。会員・非会員からの申し込みも受付いたします。なお、巡検のみの参加の場合であっても大会参加費(会員・非会員を問わず2000円(予定))をお支払いください。

申し込み方法:参加ご希望の方はメール件名「新島巡検_参加申込」にて、[mk-kobayashi\(at\)tmu.ac.jp](mailto:mk-kobayashi(at)tmu.ac.jp) (at

を@にかえる)へ、【7月27日(金)17時】までにお申し込みください。その際、メール本体には、お名前、ご所属、ご連絡先ならびに保険契約に関わる情報(性別・生年月日)、集合場所への及び解散場所からの移動方法(飛行機、大型客船、ジェット船)と時間についても記載ください(なお、移動方法・時間の連絡は、各交通機関への予約確定後の連絡で構いません)。

観察地点：順序は未定

- ①新島村博物館：新島火山の概要 ★27日午前中
- ②富士見峠展望台：新島周辺の火山島・火山地形と新島火山起源の主要テフラ
- ③赤崎峰電波塔：溶岩ドーム地形と新島火山起源のテフラと層序
- ④宮塚山：若郷・淡井浦地域からの噴出物
- ⑤向山展望台：AD886噴火：向山溶岩
- ⑥羽伏浦海岸：AD886噴火：羽伏浦火砕流・火砕サージ、大峰火砕丘
- ⑦若郷渡浮根港：新島北部の玄武岩噴火による噴出物
- ⑧淡井浦海岸：AD856-857噴火：阿土山火砕サージ、淡井浦・久田巻ベースサージ堆積物

予備：大三山(新島・神津島火山起源の約3万年間のテフラ層序)、ガラスアートセンター(※入場料別)

8. 発表の申し込みと講演要旨原稿の送付方法

1) 一般研究発表の申し込み

(1) 発表者の資格と発表件数の制限

一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者(資格は会員であること)としては、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ1人1件の発表申し込みが可能です。

(2) 発表形式と発表時間

発表形式は、口頭発表(オーラルセッション)およびポスター発表(ポスターセッション)がありますので、発表申込用紙で希望する方を選択してください。発表件数によっては、必ずしも希望の形式にならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。口頭発表(オーラルセッション)の時間は1件15分程度(質疑応答時間を含める)を予定しています(発表件数によって変更の可能性があります)。十分な説明や討論を希望する方にはポスター発表(ポスターセッション)への申し込みをお勧めします。またポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

(3) 発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り

一般研究発表の希望者は、日本第四紀学会ホームページ(<http://quaternary.jp/index.html>)の「2018年大会のお知らせ」にあります「発表申込書」と「講演要旨の原稿」に関するリンク部分からファイルをダウンロードし、必要事項を記入の上、以下の案内にそって申し込みを行ってください。講演申し込みと、講演要旨原稿の提出をもって受付とします。

- ・発表申込書と原稿は添付ファイルとして専用のアドレス [jaqua2018\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2018@gmail.com) に送付してください(atを@にかえる)。メール件名は「発表申込_筆頭発表者名」、添付するファイルの名前は「講演要旨_筆頭発表者名」としてください。2件申し込む場合は題名の後ろにA、Bをつけて両者を区別して送信してください。受付期間は6月4日(月)から6月22日(金)の予定です。
- ・講演要旨の原稿はA4で1ページ(図表掲載可)です。「2018年大会のお知らせ」の「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。
- ・本学会員のうち2018年8月1日現在で39歳以下の方は若手発表賞に、学生・大学院生の方は学生発表賞にエントリーできます。エントリー希望の方は、申込書の該当箇所に記入してください。積極的なエントリーを期待しております。

2) シンポジウム依頼講演者の講演要旨の送付方法および締め切り

シンポジウムはすべて依頼講演形式とします。シンポジウム依頼講演者の方は、8.1(3)「発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り」にしたがった形式のファイルを、専用アドレス([jaqua2018\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2018@gmail.com))あて、電子メールの添付ファイルでお送りください。メールの題名およびファイル名は「シンポジウム講演要旨：筆頭発表者名」としてください。

9. 参加費・懇親会

- ・大会参加費(予定)：2000円(会員・非会員を問わず)。会場受付でお支払いください。ただし、大学院生は1000円、70歳以上の会員、学部学生は無料です。
- ・講演要旨集：予定価格2000円(会場で直接販売。ただし、発表数等によって価格が若干変動する場合があります)
- ・懇親会に参加される方は、申し込みをお願いします。

日時：8月25日(土)18:30～(予定)

会場：首都大学東京南大沢キャンパス ルヴェゾンヴェール 南大沢
参加費：一般 5000 円 (予約)、6000 円 (当日)、院生・学生 2500 円 (予約)、3500 円 (当日) <確認中>
予約方法：8 月 10 日 (金) 17 時までに e-mail : jaqua2018 (at) gmail.com までご連絡ください (at を @にかえる)。申し込み時のメール件名は「懇親会_氏名」としてください。

10. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：鈴木毅彦 (首都大) 大会実行事務局長：白井正明 (首都大)
実行委員：渡邊真紀子・出穂雅実・岩瀬 彬・石村大輔・小林 淳・青木かおり・西澤文勝 (以上、首都大)
行事委員会：藤原 治 (産総研)・加 三千宣 (愛媛大)・米田 穰 (東京大)・岡田 誠 (茨城大)・
山田和芳 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)
連絡先：2018 年大会実行委員会事務局
〒 192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科地理学教室
白井正明 (TEL : 042-677-1111 内線 : 3838)
大会用メールアドレス : jaqua2018 (at) gmail.com (at を @にかえる)

◆日本地球惑星科学連合 2018 年大会プログラム (第 3 報)

- ・期日：2018 年 5 月 20 日 (日) ~ 5 月 24 日 (木)
- ・会場：千葉県 幕張メッセ国際会議場・国際展示場 / APA ホテル東京ベイ幕張
- ・大会詳細：http://www.jpгу.org/meeting_2018/
- ・早期参加登録締切：5 月 8 日 (火) 23:59

■第四紀関係オーラルセッション (一部抜粋)

日時 * [セッション記号] セッション名 (発言言語 **) (会場)

*AM1=9:00 ~ 10:30 AM2=10:45 ~ 12:15 PM1=13:45 ~ 15:15 PM2=15:30 ~ 17:00

** スライド・ポスター表記、口頭発言言語の順：J= 日本語 or 英語 (発表者選択) E= 英語

太字は第四紀学会開催 (主催・共催) セッション

5 月 20 日 AM1+2 [H-CG24] 堆積・侵食・地形発達プロセスから読み取る地球表層環境変動 (EJ) (A04)

5 月 20 日 AM1+PM1+2 [H-QR04] **第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス** (JJ) (A08)

5 月 21 日 AM1+2 [H-CG25] **デルタとエスチュアリー** (EE) (103)

5 月 21 日 PM1 [M-IS12] **ジオパーク** (JJ) (103)

5 月 21 日 PM2~5 月 22 日 PM1 [S-SS08] **活断層と古地震** (EJ) (21 日 301B、22 日 A07)

5 月 22 日 AM1~PM1 [M-IS11] 津波堆積物 (JJ) (102)

5 月 22 日 AM1+2+PM2 [A-CC29] アイスコアと古環境モデリング (JJ) (201A)

5 月 23 日 AM1+2、PM1 [H-GM03、02] 地形 (JJ)、Geomorphology (EE) (102)

5 月 23 日 PM1 [H-DS12] **人間環境と災害リスク** (JJ) (201B)

5 月 23 日 AM1+2、PM2、24 日 AM2 ~ PM2 [M-IS10] 古気候・古海洋変動 (JJ) (23 日 AM A08、
23 日 PM ~ 24 日 A07)

5 月 24 日 PM2 [S-GL32] 上総層群における下部-中部更新統境界 GSSP (JJ) (A10)

■ポスターセッションは、原則として、コアタイムが PM3 (17:15 ~ 18:30) でオーラルセッションと同日に開催されます。ポスターは終日掲載されます。

■第四紀学会単独・主催セッションプログラム

紙面節約のため筆頭発表者のみ掲載します。(Web を参照してください。)

●H-QR04 『第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』

オーラルセッション：5 月 20 日 (日) 9:15 ~ 10:30 (会場：A08 (東京ベイ幕張ホール))

09:15~09:30 原口 強ほか：ペルー・ナスカの地上絵のキャンパスは何でできているか (招待講演)

09:30~09:45 原口 強ほか：メキシコ、テオティワカン文明に与えた火山噴火の影響

09:45~10:00 梶田展人ほか：揚子江デルタを襲った 4200 年前の急激な気候寒冷化と世界最古の稲作文明

の関係 (招待講演)

- 10:00~10:15 川幡穂高：過去 3000 年間の日本人と日本社会が経験した気候・環境
 10:15~10:30 眞島英壽：本州中部に分布する黒曜石の全岩化学組成 - 遺物黒曜石の原産地推定にむけて

オーラルセッション：5月20日(日) 13:45 ~ 17:00 (会場：A08 (東京ベイ幕張ホール))

- 13:45~14:00 鹿島 薫ほか：モンゴル・アルタイ山地における珪藻分析を用いた湖沼の環境変動
 14:00~14:15 福與直人ほか：二枚貝を用いた完新世トンガ王国における古環境復元
 14:15~14:30 塚本すみ子ほか：ルミネッセンス年代測定によるアラビア半島南東部の水環境変遷の復元
 14:30~14:45 青木かおり：ベーリング海 IODP323 次掘削コア U1344 に介在する第四紀テフラの岩石学的特徴
 14:45~15:00 中島 礼ほか：志摩半島に分布する第四系先志摩層の複合年代層序
 15:00~15:15 鈴木毅彦ほか：関東平野西部、狭山丘陵狭山層上部から検出された前期更新世テフラとその年代：蔵敷、赤塚コア A10、屏風ヶ浦 Ob5.1 テフラの対比
 15:30~16:05 遠藤邦彦ほか：東京台地部の東京層と、関連する地形：ボーリング資料に基づく再検討
 16:05~16:20 中澤 努ほか：世田谷層の層序及び分布形態と地盤振動特性
 16:20~16:35 小荒井 衛ほか：自然堤防における液化化発生箇所の地形・地盤条件
 16:35~16:50 杉中佑輔ほか：レインボーコンターマップ (RCMap) による地形解析とその応用
 16:50~17:00 Discussion

ポスターセッション：5月20日(日) 10:45 ~ 12:15 (会場：幕張メッセ国際展示場7ホール)

- Zih Wei Tang ほか：The Study on Diatom Assemblages of the Lacustrine Sediment in the Tunlumei Pond in Central Taiwan
- Xingyu Jiang：Magnetostigraphic chronology of Borehole HLL01, south coast of Laizhou Bay
- 丹羽雄一ほか：三陸海岸北部・小本平野における完新世の堆積環境と地殻変動傾向
- 野口真利江ほか：珪藻分析からみた関東平野中川低地北部～思川低地における縄文海進と MIS5 ~ 7 の古環境復元 - 栗橋コアを中心に
- 杉中佑輔ほか：赤羽台から本郷台における地形・地質層序の新しい見方：MIS4 期の化石谷を中心に
- 高橋尚志ほか：関東地方、荒川支流・横瀬川合流点付近における最終間氷期以降の河谷埋積過程
- 舟津太郎ほか：武蔵野礫層堆積頂面の縦断面形の地形解析からみた武蔵野扇状地の形成機構に関する予察
- 村木昌弘ほか：礫層の堆積環境に基づく大磯丘陵東部の活構造と丘陵発達過程の推定
- 佐藤善輝ほか：足柄平野南部における 13 ka 以降の堆積速度変化の特徴と相対的海水準変動との関連
- 山田和芳ほか：三保の松原の景観形成に関する人的影響
- 高場智博：耳納山地北麓に分布する扇状地群の段丘面区分と ^{14}C 年代測定
- 石原武志ほか：テフラ及び花粉分析に基づく会津盆地西部のオールコア (GS-NT-1) の層序
- 田村糸子ほか：房総半島の上総層群で見出された大隅石を含む広域テフラ
- 中里裕臣ほか：火山ガラスの微量元素組成に基づく Ks5 と類似するテフラの対比
- 宮入陽介ほか：泥炭試料を用いた湿原堆積物の高精度放射性炭素年代決定

● S-SS08 『活断層と古地震』

オーラルセッション：5月21日(月) 15:30 ~ 17:00 (会場：301B (幕張メッセ国際会議場 3F))

- 15:30~15:45 石橋克彦：永正九年 (1512) の阿波穴喰浦洪水災害を記す「当浦成来旧記書之写」の問題点
 15:45~16:00 加納靖之ほか：市民参加型のオンライン翻刻プロジェクト「みんなで翻刻」の資料に対する計量テキスト分析
 16:00~16:15 服部健太郎ほか：1707 年宝永地震と富士山宝永噴火に関する一史料 - 元禄地震・宝永地震・宝永富士山噴火を記した「当山本宮記」 -
 16:15~16:30 中西一郎ほか：史料の履歴書：地震史料・火山噴火史料
 16:30~16:45 富田美有ほか：2014 年長野県北部の地震による白馬村堀ノ内地区の建物被害と地形・表層地質との関係
 16:45~17:00 原口 強ほか：別府湾・日出断層群はどうやって形成されたか？

オーラルセッション：5月22日(火) 9:00 ~ 15:15 (会場：A07 (東京ベイ幕張ホール))

- 09:00~09:15 石村大輔ほか：2016 年熊本地震に伴う微小変位地点における古地震調査 (招待講演)
 09:15~09:30 原口 強ほか：2016 年熊本地震に伴う阿蘇谷の亀裂群はどのように起こったか
 09:30~09:45 白濱吉起ほか：阿蘇カルデラ東部濁川左岸沿いに出現した正断層群とその活動履歴 (招待)

講演)

- 09:45~10:00 遠田晋次ほか：熊本地震地表地震断層の完新世活動履歴 —南阿蘇村黒川地区トレンチ調査—
10:00~10:15 宇根 寛ほか：トレンチ掘削による阿蘇外輪山北西部の「お付き合い地震断層」の累積性の確認と活断層評価におけるその意義
10:15~10:30 青柳恭平ほか：DInSAR 解析による 2016 年熊本地震の地表地震断層の変位量分布
10:45~11:15 萬年一剛：海岸低地の堆積物から推定される 1703 年より前の関東地震 (招待講演)
11:15~11:30 渡辺満久：紀伊半島南部沿岸における地殻変動
11:30~11:45 土井一生ほか：平成 28 年熊本地震に伴って阿蘇谷に現れた大規模亀裂群の成因の推定 —的
石地区におけるボーリング調査とコアの詳細分析—
11:45~12:00 木村治夫ほか：糸魚川—静岡構造線活断層系神城断層の北部における P 波反射法地震探査
12:00~12:15 池口直毅ほか：糸魚川—静岡構造線活断層系神城断層における極浅層 S 波反射法地震探査
13:45~14:00 宮内崇裕ほか：活断層詳細デジタルマップ [新編] の刊行
14:00~14:15 小森純希ほか：海岸段丘の新たな DEM 表現と数値的検出手法—房総半島沼段丘群への適用
14:15~14:30 石山達也ほか：高分解能浅層反射法地震探査から明らかになった石狩平野の伏在活断層
14:30~14:45 北村晃寿：御前崎の隆起貝層の再発見
14:45~15:00 田中雅章ほか：松江地域周辺のレス堆積物を対象とした遊離酸化鉄分析による年代推定手
法の分解能に関する検討
15:00~15:15 加納靖之：Constraint of fault geometry for Japanese historical earthquakes based on groundwater
anomaly

ポスターセッション：5月22日(火) 15:30~17:00 (会場：幕張メッセ国際展示場7ホール)

1. 山村紀香ほか：液状化から考える 1586 年天正地震の震源断層推定
2. 立石 良ほか：活断層詳細デジタルマップ [新編] の作成 (その 1：断層情報)
3. 白澤道生ほか：活断層詳細デジタルマップ [新編] の作成 (その 2：立体活断層図)
4. 佐々木達哉ほか：活断層詳細デジタルマップ [新編] の作成 (その 3：活断層ビューア)
5. 岡田真介ほか：青森湾西岸断層帯を横断する重力探査とその地下構造
6. 田力正好ほか：下北半島東部，下北丘陵周辺の活断層とそのテクトニックな意義
7. 坂下 晋ほか：Application of high density CSAMT exploration for the Senya active fault, eastern margin of the Yokote basin fault zone
8. Anggraini Rizkita Pujil ほか：Reexamination in northern Haramachi Segment of Futaba Fault delineation and its activity
9. 塚原柚子ほか：房総半島南東岸の元禄汀線付近に記録された 2 回の離水イベント
10. 阿部大輔ほか：第四紀後期地形面の変形から推定される相模平野南部の活構造
11. 佐藤善輝ほか：CNS 元素分析及花粉分析を用いた足柄平野南部における国府津—松田断層帯 3,000 年前イベントの再検討
12. Laura Lamair ほか：Paleoearthquakes recorded in the Fuji Five Lakes during the last ca. 6000 years (Fuji Five Lakes, Japan)
13. 澤田明宏ほか：重力異常および音波探査による堆積層構造から推定される能登半島西方沖の基盤構造
14. 高橋直也：断層セグメントの細分化 —糸魚川—静岡構造線活断層帯神城断層を例に—
15. 杉戸信彦ほか：高解像度 DEM を用いた長野県大町市街地の活断層分布の検討
16. 穴倉正展ほか：静岡県蒲原低地における富士川河口断層帯入山瀬断層の活動性
17. 宮田慎也ほか：重力異常から見た鹿野—吉岡断層の特徴
18. 室谷智子ほか：国立科学博物館に残る 1927 年 (昭和 2 年) 北丹後地震に関する写真資料
19. 行谷佑一ほか：四国地域の活断層の長期評価について
20. 関悠花里ほか：熊本平野北東部に分布する活断層の認定とその活動性
21. 今野明咲香ほか：2016 年熊本地震における地表地震断層と活断層の離隔距離の定量的検討—変位セン
スに着目して—
22. 中埜貴元ほか：的石牧場 I 断層における GPR 探査結果とトレンチ調査結果との対比
23. 上田圭一ほか：2016 年熊本地震時に出現した地表地震断層群の活動履歴：益城町および南阿蘇村にお
けるトレンチ調査結果 (序報)
24. 藤原 智ほか：熊本地震に伴い現れた阿蘇カルデラ北西部の地表断層群と九州中部の活断層の形態の類似性
25. 後藤秀昭：南西諸島中部の与論島とその周辺海域の変動地形からみた応力軸
26. 堤 浩之ほか：スマトラ断層北端部の断層変位地形と活動履歴
27. 中田 高ほか：ALOS 30 DEM 画像判読によるヒマラヤ南縁の活断層マッピング

28. Zakeria Shnizai ほか: Detailed mapping of the Chaman fault near Kabul, Afghanistan, using ALOS Images
 29. Dogan Kalafat ほか: Source Parameters of Moderate and Strong Earthquakes for Turkey and its Surrounding Area (1938-2017)
 30. 竿本英貴: 有限要素法を用いた断層変位評価 – 断層形状と圧縮軸方位に関するパラメトリックスタディー
 31. 三五大輔ほか: SAR 衛星の干渉解析による余効変動の面的分布抽出と地震に起因する地殻変動との比較
 32. 新實拓也ほか: 地表付近のみで変位を生じた断層破碎帯の特徴: 阿寺断層を例として
 33. 澤 祥: 高精度アナグリフ画像解析による逆断層活断層に伴う波状変形の抽出と活断層トレースの再検討
 34. 岩森暁如ほか: 医療用 X 線 CT を活用した断層破碎帯の最新活動部認定手法

◆日本第四紀学会シンポジウム開催報告

「改めて問う “縄文海進” とは何か? – 第四紀学的視点からの再検討 –」

藤原 治 日本第四紀学会行事委員長 (産総研 地質調査総合センター)

2018年2月17日に、表記のシンポジウムを明治大学・駿河台キャンパスアカデミーコモンで開催した。“縄文海進”は、日本の地質や考古学研究などには広く知られている言葉である。これは、縄文時代の貝塚の分布や地形・地質の情報から知られる、現在の海岸線より内陸まで海が広がった現象に対して名付けられたものである。この“縄文海進”は、平野の成り立ち、ヒトの文化への影響、相対的海水準変動を利用した地殻変動の解析などに日本では広く関わっている。一方で、“縄文海進”は日本独特の用語であり(言い換えると、縄文時代(前期)に高海面が出現するのは日本の地理的特徴である)、地球規模でみれば一種のローカルな現象とも言える。6000~7000年前頃に現在よりも相対的海水準が高くなる現象は、最終氷期に存在した北半球氷床から離れた場所に特有の現象(ハイドロアイソスタシーの影響)であるというのは、第四紀研究者でも正確に知っている人は少ないのではないだろうか。“縄文海進”については、相対的海水準変動やその正確な時代、この時期の温暖化の実態や原因については未解明の課題、あるいは新たに判明した問題が多くある。

このシンポジウムでは、そもそも“縄文海進”とは誰が命名したもので、学術用語として正しいのか?と言ったところから説き起こして、その研究史、原因、人間の生活との係わりなどについて広範囲な話題を提供した。それには地質学、地形学、氷河学、地球物理学、考古学、古生物学、古海洋学などの第四紀学の様々な分野からの最新の知識が含まれている。

本シンポジウムでは日本第四紀学会員だけでなく、考古学や地震などの研究者や一般の方々にも来場いただいた。約200名収容の会場で立ち見が出るほどの盛況(参加者総数は201名)で、この問題への関係者の関心の高さが改めて感じられた。総合討論での意見交換も含めて、これまでの“縄

文海進”のイメージや常識について考え直すとともに、これからの課題を明確にすることができたと思われる。

さて、本シンポジウムの主題である“縄文海進”という言葉は、どうやら1942年に東京大学の大家弥之助先生と慶應義塾大学の江坂輝弥先生が東京の地下工事現場で、有楽町層の露頭を見ながら最初に使ったらしい。有楽町海進とも呼ばれる“縄文海進”の名称については、地層命名指針の観点から見てどのように考えるべきか、今後も議論が必要であろう。

口頭発表では以下の講演があり、かなり専門的な内容も含まれていたが、参加者は熱心に聞き入っていた。

講演プログラム

- <前半司会: 藤原 治 (産業技術総合研究所)>
 ・開会挨拶 齋藤文紀 (日本第四紀学会会長・島根大学・産業技術総合研究所)
 ・趣旨説明 三浦英樹 (国立極地研究所)
 ・“縄文海進”の研究史と用語・編年に関する諸問題 辻 誠一郎 (東京大学)
 ・“縄文海進”の海域環境と人間活動 一木絵理 (上高津貝塚ふるさと歴史の広場)
 ・“縄文海進”とその前後の北半球氷床・南極氷床の変動史と海水量 三浦英樹
 ・縄文時代以降の海面変化を引き起こす様々な要因ーハイドロアイソスタシーの役割ー 奥野淳一 (国立極地研究所)

<後半司会: 奥野淳一>

- ・晩氷期以降における落葉広葉樹林から常緑広葉樹林/スギ林への移行時期の地域的な相違 高原 光 (京都府立大)
- ・二枚貝の微細成長縞を用いた“縄文海進”期の高精度気候復元 宮地 鼓 (国立アイヌ民族博物

館設立準備室)

- ・“縄文海進”期における黒潮の水温と流路 池原 実 (高知大)
- ・コメント 松島義章 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
- ・旧海面高度の復元と地震性地殻変動解読への応用、問題点 藤原 治 (産業技術総合研究所)
- ・総合討論 司会：松浦秀治 (日本第四紀学会副会長・国立科学博物館)
- ・閉会の挨拶 鈴木毅彦 (日本第四紀学会副会長・首都大学東京)
- ・世話人 三浦英樹 (代表)、奥野淳一、藤原 治、松浦秀治

本シンポジウムでは、所期の目標をある程度は達成できたと考えられるが、「海進」と「海面上昇」の関係など、まだ研究分野間で共通理解に達していない問題点も改めて浮き彫りとなった。せっかく盛り上がった機運を生かしていくよう、今後もフォローが必要と感じた。なお、本シンポジウム開催に当たっては、下記の機関のご協力をいただいた。最後に、講演者の方々に改めて御礼申し上げます。

共催：産業技術総合研究所 地質調査総合センター、国立極地研究所
 後援：文部科学省 科学研究費助成事業 新学術領域研究「熱-水-物質の巨大リザーバ：全球環境変動を駆動する南大洋・南極氷床」

シンポジウムでの講演の様子



◆日本第四紀学会 2017 年度第 2 回評議員会議事録

日時：2018 年 2 月 17 日 (土) 10:00 ~ 12:00
 場所：明治大学アカデミーコモン 9 階 309B 教室
 出席：齋藤文紀、鈴木毅彦、松浦修治、青木かおり、吾妻 崇、池原 研、出穂雅実、卜部厚志、奥野 充、北村晃寿、公文富士夫、小荒井 衛、近藤 恵、高原 光、長橋良隆、兵頭政幸、藤原 治、三浦英樹、目代邦康、百原 新、米澤正弘
 オブザーバー：永峯菜穂子 (事務局)

議事：

1. 定足数の確認を行い、評議員数 37 名のところ、出席者が 18 名であり、委任状 10 通が届いていることから、会議開催が成立していることを確認した。
2. 会議開催にあたり、齋藤文紀会長からあいさつがあった。
3. 2017 年度上期の委員会活動について、以下の報告があった。
 - (1) 庶務委員会
 - 1) 総会 (8 月 27 日)・評議員会 (2 回・電磁的

- な開催を含む)・執行部会 (4 回) を開催した。
- 2) 2017 年度上期末会員数 1,137 名 (正会員 1,112 名、賛助会員 9 社、名誉会員 16 名)。
 逝去会員：生越 忠会員、高木 孝会員
- 3) 学会賞・学術賞・若手学術賞受賞候補者、論文賞・奨励賞受賞候補者の推薦募集を行い、学会賞 2 名、学術賞 3 名、若手学術賞 1 名の推薦を受け付けた。
- 4) 転載許可・受け入れ図書の整理を行った。
- 5) 学会・シンポジウム等の共催・後援に関連する業務を行った。
- 6) 学会活動に関するその他の庶務業務を行った。
- (2) 会計委員会
 - 1) 会計に関する承認業務を行った。
 - 2) 2017 年度総会において 2016 年度の収支決算を報告するとともに、2017 年度の予算を提案した。
- (3) 編集委員会
 - 1) 第四紀研究第 56 巻第 5 号 (特集号・論説 7 編、討論・返答 1 編、書評 1 編、66 頁)、第 6

- 号(学術賞受賞記念論文1編、資料1編、書評2編、24頁)を刊行した。第56巻の総頁数は273頁である(第55巻:273頁、第54巻367頁)。
- 2) 第四紀研究第57巻第1号(特集号・論説2編、資料1編、書評1編、39頁)を刊行した。
- 3) 2017年度日本第四紀学会賞および学術賞受賞者に受賞記念論文を依頼した。第57巻以降に掲載予定である。
- 4) メール編集委員会を8回(2017年8月16-18日、10月11-18日、10月27日-11月3日、11月9日-11月13日、11月14-18日、11月27日-12月1日、2018年1月17-23日、1月24-31日)開催した。2月13日現在、受理済み原稿(書評を除く)は4編(3編は57巻第2号に掲載予定、1編は3号に掲載予定)、手持ち原稿は論説4編、短報2編(特集号16編を除く)である。
- 5) 第四紀研究投稿規定の一部修正をメール評議員会に諮り、承認いただいた。これを57巻第1号、学会HPに掲載した。なお、学会HPの一部改正の日付が抜けているので、早急に修正する。
- 6) 第四紀研究のカラー頁の印刷料金について、57巻第1号に掲載した。
- 7) J-STAGEによる電子ジャーナル化を行っており、現在のところ56巻5号までのアップロードと公開が完了している。
- (4) 行事委員会
- 1) 日本第四紀学会2017年大会を福岡大学において8月26日(土)~28日(月)に開催した。また、大会巡検「古代伊都国の史跡と第四紀地質」を8月29日(火)に、「熊本地震関連で巡る熊本~阿蘇」を8月29日~30日にそれぞれ実施した。
- 2) 日本第四紀学会2018年大会を2018年8月24日~28日に首都大学東京南大沢キャンパス(講堂・7号館スタジオ)で開催する予定で、関係者と検討を行い、その準備を行った。
- 3) 日本第四紀学会2019年大会を、2019年8月に苗場山麓ジオパーク(グリーンピア津南:新潟県津南町)で開催する方向で調整中。
- 4) 2018年2月17日(土)に明治大学駿河台キャンパス・アカデミーコモンで開催するシンポジウム「改めて問う“縄文海進”とは何か?—第四紀学的視点からの再検討—」の準備を行った。
- (5) 広報委員会
- 1) 広報委員会を組織して、第四紀通信の編集およびホームページの維持管理を行った。
- 2) 「第四紀通信」第24巻5、6号を編集し、発行した。
- 3) 「第四紀通信」上記各号の電子版(pdf版)を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。
- 4) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報、情報提供、アウトリーチ活動等を行った。
- 5) 日本第四紀学会会員メーリングリストを通じて各種情報提供等を行った。
- 6) 日本第四紀学会評議員会メーリングリストおよび日本第四紀学会幹事会メーリングリストの管理を行った。
- (6) 渉外委員会
- 1) 2018年日本地球惑星科学連合にセッション『第四紀—ヒト・環境系の時系列ダイナミクス』、『活断層と古地震』を提案した。現在、発表登録を受付中。前者は5月20日(日)に2コマ、後者は5月21日(月)~22日(火)に4コマで、それぞれ口頭発表が行われる予定。
- 2) 防災学術連携体の活動に参加し、11月26日(日)・27日(月)に開催された『第2回防災推進国民大会』において千葉達朗会員がポスター発表を行った。
- 3) 自然史学会連合の活動について、10月に福島県いわき市で開催されたイベントに協力した。12月に開催された総会に工藤雄一郎委員が出席した。
- 4) 日本ジオパーク委員会の活動に第四紀学会から審査委員を2名出し、協力した。
4. 2017年上期における領域の活動について、各領域から報告があった。
- (1) 領域1: 気候変動及び海洋の諸プロセス
今夏の大会での活動を目標に、検討を行っている。
- (2) 領域2: 陸上の諸プロセス
INQUAのTERPEO委員会で行われている国際ワークショップの開催情報を「第四紀通信」への掲載、会員MLでの配信によって会員に周知した。
- (3) 領域3: 層序と年代基準
「千葉セクション」をテーマとしたシンポジウムの開催を検討している。
- (4) 領域4: 人類と生物圏
最終氷期最盛期に焦点をあてた生物関係のシンポジウム開催を検討中。
- (5) 領域5: 現代社会に関わる第四紀学
ジオパークと学校教育をテーマとして、12月にお茶の水大学でシンポジウムを開催した。
5. 三浦英樹会計委員長より、資料1、資料2に基づき、2017年度会計の中間報告について説明された。
6. 名誉会員候補者選考委員会委員の選出について、会長より推薦があった下記の5名を2017年度の委員に任命することが承認された。
奥村晃史、公文富士夫、佐藤宏之、松浦秀治、水野清秀
7. 法務委員会委員の選出について、会長より推薦があった下記の5名を2017-2018年度の委員に任命することが承認された。
辻 誠一郎、中村俊夫、三田村宗樹、御堂島 正、

第2回評議員会議事録

宮内崇裕
8. 学会の法人化について質問があり、これまでの経緯について説明があった。

9. 2019年大会について、苗場山麓ジオパークからの開催地誘致の経緯と状況について、補足説明があった。

(資料1)

2017年度収支会計中間報告

(2018年1月31日現在)

収入の部

(単位円)

科 目	予算額①	1月31日現在②	増減②-①	摘 要
会費収入	10,500,000	8,585,394	-1,914,606	
正会員会費収入	10,300,000	8,345,394	-1,954,606	通常会員会費 8,164,000円 学生会員会費 105,000円 海外会員会費 76,394円
賛助会員会費収入	200,000	240,000	40,000	20,000円×9社(12口)
誌代	1,250,000	455,152	-794,848	要旨集売上、定期雑誌購入、Back No
別刷代・超過頁代収入	750,000	306,945	-443,055	56巻4号～56巻6号別刷代
雑収入	500,000	817,477	317,477	2017年大会余剰金、デジタルブック、JST、著作権料収入等
利子収入	5,000	35	-4,965	預金利息
広告料収入	20,000	25,000	5,000	2017年大会予稿集(2社)
役員選挙積立金取崩収入	0	0	0	
INQUA対策積立金取崩収入	0	0	0	
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0	
予備費積立金取崩収入	0	0	0	
収入合計	13,025,000	10,190,003	-2,834,997	
前期繰越金	16,482,906	16,482,906	0	
合計	29,507,906	26,672,909	-2,834,997	

支出の部

(単位円)

科 目	予算額①	1月31日現在②	増減②-①	摘 要
会誌発行費	4,900,000	2,639,697	-2,260,303	
印刷費	3,000,000	1,332,612	-1,667,388	第四紀研究 56巻4号～56巻6号(各1300部)
編集費	500,000	0	-500,000	
編集人件費	1,200,000	1,200,000	0	
別刷印刷費	200,000	107,085	-92,915	第四紀研究 56巻4号～56巻6号
会誌・会報発送費	600,000	234,337	-365,663	第四紀研究 56巻4号～56巻6号
会報発行費	810,000	536,418	-273,582	
印刷費	550,000	359,640	-190,360	第四紀通信 24巻4号～24巻6号(各1200部)
編集費	70,000	66,778	-3,222	第四紀通信編集費
編集人件費	190,000	110,000	-80,000	第四紀通信編集アルバイト代
学会HP運営費	150,000	85,260	-64,740	HP更新アルバイト代、ドメイン更新料等
大会運営準備金	400,000	0	-400,000	
巡検準備金	100,000	0	-100,000	
講演会・シンポジウム費	100,000	38,010	-61,990	シンポジウム施設利用料(2/17)等
予稿集印刷費	250,000	239,760	-10,240	2017年大会講演要旨集(本300部)
学会賞等顕彰費	150,000	104,756	-45,244	副賞1名(50,000円)、賞状作成費
通信費	400,000	189,942	-210,058	会費請求書発送郵税、事務通信費等
会議費	0	0	0	
旅費・交通費	600,000	328,281	-271,719	執行部会等交通費
印刷費	450,000	174,063	-275,937	学会専用封筒、コピー代
業務委託費	2,400,000	1,026,000	-1,374,000	事務委託費概算払分
領域活動費	750,000	149,176	-600,824	シンポジウム施設利用料・交通費等(領域5)
INQUA対策費	0	0	0	
役員選挙費	0	0	0	
名簿作成費	0	0	0	
INQUA対策積立金繰入支出	100,000	0	-100,000	
役員選挙費積立金繰入支出	350,000	0	-350,000	
名簿作成積立金繰入支出	300,000	0	-300,000	
予備費積立金繰入支出	0	0	0	
加盟学協会分担金支出	60,000	0	-60,000	地球惑星科学連合、自然史学会連合分担金
国際科学技術コンテスト協賛	50,000	0	-50,000	国際地学オリンピック協賛金
雑費	55,000	16,871	-38,129	振込手数料等
予備費	50,000	0	-50,000	
支出合計	13,025,000	5,762,571	-7,262,429	
次期繰越金	16,482,906	20,910,338	4,427,432	
合計	29,507,906	26,672,909	-2,834,997	

(資料2)

貸借対照表
(2018年1月31日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
郵便振替	17,058,906	前受会費	36,000
小口現金	514,893		
普通預金	1,061,158	小計	36,000
現金(事務局)	4,298	正味財産	
未収金	7,083	名簿作成積立金	0
		役員選挙積立金	0
固定資産		INQUA対策積立金	200,000
定期預金	10,000,000	予備費積立金	7,500,000
		次期繰越金	20,910,338
		(前期繰越金)	16,482,906)
		(当期収支差額)	4,427,432)
		小計	28,610,338
合計	28,646,338	合計	28,646,338

財産目録
(2018年1月31日現在)

(単位：円)

科目	摘要	金額
郵便振替	郵便局(年会費振込専用口座)	17,058,906
小口現金	編集書記手許金	514,893
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	855,835
普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	205,323
現金	事務局手持ち金	4,298
未収金	別刷代・超過頁代収入	7,083
流動資産合計		18,646,338
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000
固定資産合計		10,000,000
合計		28,646,338

負債の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
前受会費	2018年度以降年会費	36,000
合計		36,000

正味財産の部

(単位：円)

科目	摘要	金額
名簿作成積立金	名簿作成積立金	0
役員選挙積立金	役員選挙積立金	0
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	200,000
予備費積立金	予備費積立金	7,500,000
次期繰越金		20,910,338
	前期繰越金	16,482,906
	当期収支差額	4,427,432
合計		28,610,338

◆日本第四紀学会 2017年度第5回執行部会議事録

日時：2018年3月5日(月) 9:30～13:00
 会場：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス
 会議室 B
 東京都千代田区外神田 1-18-13、秋葉原ダイビル 12階
 出席：齋藤文紀(会長)、鈴木毅彦(副会長)、松浦秀治(副会長)、吾妻 崇(庶務委員長)、三浦英樹(会計委員長)、百原 新(広報委員長)、小荒井 衛(渉外委員長、領域5代理)

欠席：池原 研(領域1)、須貝俊彦(領域2)、兵頭政幸(領域3)、高原 光(領域4)、植木岳雪(領域5)、北村晃寿(編集委員長)、藤原 治(行事委員長)
 オブザーバー：永峯菜穂子(事務局)
 議事
 1) 各委員会から活動報告があった
 2) 鈴木大会実行委員長から、2018年大会のテーマ、巡検の行き先などに説明があった。

- また発表要旨投稿スケジュールや大会シンポジウムの進め方について検討した。
- 3) 2019年大会の開催地について検討し、津南町(苗場山麓ジオパーク)ではなく、千葉科学大学を優先して話を進めることとした。
 - 4) 丸善での販売が終了した『デジタルブック最新第四紀学』の販売価格について検討し、2018年4月1日から半額とすることとした。
 - 5) 2017年度第3回評議員会の開催日程について、6月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)のいずれかで開催するように、議長と日程調整することとした。
 - 6) 第3回評議員会に併せた行事開催について検討し、東京低地の地下地質をテーマとし、遠藤邦彦会員と中澤 努会員に講演を依頼することとした。
 - 7) 春恒社との契約内容について確認した。
 - 8) 庶務委員会から顕彰関係の各選考委員会に審査の開始を依頼することとした。
また名誉会員候補者の選考期日を5月31日とすることについて、評議員会に審議を依頼することとした。
 - 9) 次回の執行部会を5月下旬もしくは6月上旬に開催することとした。

◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

日本第四紀学会では、学正会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。

2018年度(2018年8月1日～2019年7月31日)を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロ使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを**2018年6月30日(土)までに日本第四紀学会事務局まで郵送またはメール添付にてお送り下さい。**本届が提出されない場合は、2018年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。

また、日本学術振興会特別研究員(PD)や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合せ・送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号

新宿ラムダックスビル 日本第四紀学会事務局

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com TEL : 03-5291-6231 / FAX : 03-5291-2176

提出方法：郵便もしくはメール添付にてお送りください。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報委員長：百原 新 (arata(at)faculty.chiba-u.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性

ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 千葉大学大学院 園芸学研究科 百原 新

〒271-8510 千葉県松戸市松戸648 FAX : 047-308-8720

広報書記：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子・岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176